

関東ESD推進ネットワーク 第2回 地域フォーラム



地域のESD実践者と考える、SDGsに貢献する取り組み

関東地方ESD活動支援センター
(関東ESDセンター)
平成30年12月22日

Education for Sustainable Development

～のための教育
～持続可能な
～開発・発展

持続可能な開発のための教育

「持続可能な開発のための教育(ESD)」は、人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇、貧困の拡大等、人類の開発活動に起因する現代社会における様々な問題を、各人が自らの問題として主体的に捉え、身近なところから取り組むことで、それらの問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらし、もって持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動である。【ESD国内実施計画より】

ESD推進の経緯

- 2002年(H14) 持続可能な開発に関する世界首脳会議(ヨハネスブルグ・サミット)で「ESDの10年(DESDE)」が提唱される。
- 2005年(H17) **国連持続可能な開発のための教育の10年**開始
～2014年(H26)まで
- 2014年(H26)「ESDに関するユネスコ世界会議」においてDESDEの後継プログラムとして「**ESDに関するグローバル・アクション・プログラム(GAP)**」の開始が正式発表
- 2015年(H27) ESD活動支援企画運営準備委員会において検討開始
- 2016年(H28)「我が国における『持続可能な開発のための教育(ESD)に関するグローバル・アクション・プログラム』実施計画」(ESD国内実施計画)が関係省庁連絡会議で決定
- 2016年(H28)平成28年4月 ESD活動支援センター(全国)開設

【ESD国内実施計画(抜粋)】

[～ESD活動に取り組む様々な主体が参画・連携し、拠点の形成とともに、地域が必要とする取組支援や情報・経験を共有できる「**ESD活動支援センター(全国・地方)**」を整備し、地域の実態を踏まえた効果的な運用を図っていく。]



地方ESD活動支援センター

地方ESD活動支援センター(地方センター)
 全国センターや地方自治体、地域ESD拠点
 等との連携のもと、主に以下の機能を果
 たすことで、ESD推進ネットワークの広域
 的なハブ機能を果たします。

1. ESD活動を支援する情報共有機能
2. 現場のニーズを反映したESD活動の
 支援機能
3. ESD活動のネットワーク形成機能
4. 人材育成機能、等

関東地方ESD活動支援センター
 〒060-0042
 北海道札幌市中央区大通西5-11
 大5ビル7階
 TEL 011-596-0921

東北地方ESD活動支援センター
 〒980-0014
 宮城県仙台市青葉区本町3-2-23
 仙台第二ビル1階
 TEL 022-393-9615

関東地方ESD活動支援センター
 〒150-0001
 東京都渋谷区神宮前5-53-67
 コスモス青山地下1階
 TEL 03-6427-7975

中部地方ESD活動支援センター
 〒460-0003
 愛知県名古屋市中区錦2-4-3
 錦パークビル4階
 TEL 052-218-9073

西濃地方ESD活動支援センター
 〒760-0023
 香川県高松市寿町2-1-1
 高松第一生命ビル南館3階
 TEL 087-823-7181

近畿地方ESD活動支援センター
 〒540-6591
 大阪府大阪市中央区大学町11-7-31
 OMAIビル
 TEL 06-6948-5866

中国地方ESD活動支援センター
 〒730-0011
 広島県広島市中区基町11-10
 合人社広島船越ビル5階
 TEL 082-559-2278

九州地方ESD活動支援センター
 〒860-0806
 熊本県熊本市中区花畑町4-18
 熊本中国専攻校2階
 TEL 096-223-7422

関東地方ESD活動支援センター

名 称：関東地方ESD活動支援センター
 略 称：関東ESDセンター
 英語名：ESD Resource Center of Kanto, Japan
 開設日：平成29年7月3日（月）

【関東ESDセンターの役割】

- ① ESD活動を支援する**情報共有機能**
- ② 現場のニーズを反映した**ESD活動の支援機能**
- ③ ESD活動の**ネットワークの形成機能**
- ④ 人材育成機能

① ESD活動を支援する情報共有機能



<http://kanto.esdcenter.jp/>

ホームページでは、関東地域で開催されるESD/SDGs関連の情報を中心に、各地で開催された行事を取材したレポートや、当センター主催の勉強会、ESDに関する地域の活動拠点などについて、情報提供をしています。



毎月第1木曜日にメールマガジンを発行しています。
 関東地方のESDに関するイベント、セミナー、補助金・助成金募集などの情報を集めてお送りしています。ESDにご関心のある方は、是非ご利用下さい。



Facebookでも、日々の活動など情報発信中！いいね！をお願いします。

② 現場のニーズを反映したESD活動の支援機能

“ESDユース応援企画” ESD勉強会
 「みんなで考える、高校向けSDGSプログラム」

○日時：平成30年6月8日（金）18:30～20:30
 ○場所：地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）



② 現場のニーズを反映したESD活動の支援機能 “ESDユース応援企画2” ESD勉強会 「誰も取り残さない、高校でのESDを考える」

○日時：平成30年9月1日（土）14:00～16:30
○場所：地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）



③ ESD活動のネットワークの形成機能

関東地方「地域ESD活動推進拠点」

- 【茨城県】 認定NPO法人 茨城NPOセンター・コモンズ
- 【栃木県】 NPO法人エコロジーオンライン
- 【群馬県】 チャウス自然体験学校（NPO法人 チャウス）
- 【埼玉県】 筑波大学附属坂戸高等学校
- 【千葉県】 特定非営利活動法人環境パートナーシップちば
- 【東京都】 新宿ユネスコ協会／成蹊学園サステナビリティ教育研究センター
立教大学ESD研究所／多摩大学アクティブ・ラーニング支援センター
- 【新潟県】 学校法人 日本自然環境専門学校
公益財団法人 鼓童文化財団
- 【山梨県】 公益財団法人キープ協会
- 【静岡県】 特定非営利活動法人アースライフネットワーク
伊豆半島ジオパーク推進協議会・教育部会

【11/30時点】全国登録件数：63件、内関東：14件

③ ESD活動のネットワークの形成機能

地域ESD拠点の意見交換会

「地域意見交換会in埼玉2019」
～学校と地域が連携したESDを考える～

日時：平成31年2月16日（土）
14:00～16:30

会場：筑波大学附属坂戸高等学校

第3回 やまなし環境教育ミーティング

日時：2019年3月16日（土）
10:00～16:00

会場：山梨県立八ヶ岳
自然ふれあいセンター

事例紹介① SDGsを教室へ、研究開発学校
「グローバルシティズンシップ科」の実践
埼玉県上尾市立東中学校
研究主任 松倉 紗野香 先生

パネルディスカッション
「教育」「暮らし」「仕事」をテーマに
・小西 貴士（写真家）
・永井 寛子（認定NPO法人スペースふう）
・中田 無双（北都留森林組合参事）

事例紹介② SGHの取組
筑波大学附属坂戸高校 建元 喜寿 先生

事例紹介＆情報交換 ～環境教育屋台村～

④ 人材育成機能

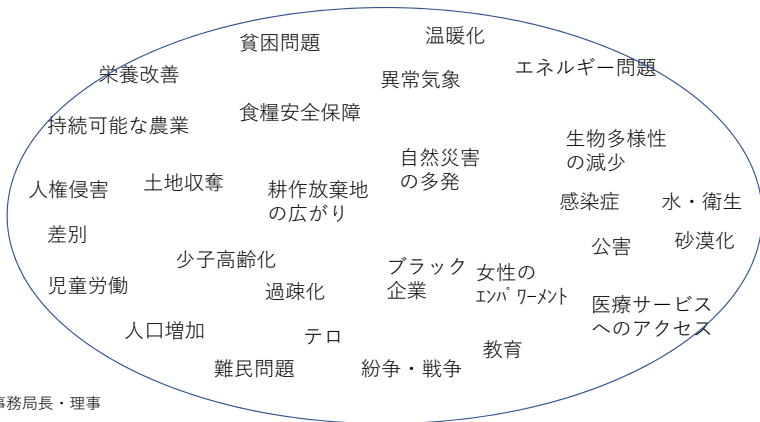
静岡県立三島北高校
「SGH初期指導-LWIの発見」
平成30年4月11日（水）
静岡県立三島北高校

群馬県環境アドバイザー研修会
「ESD/SDGsについて」
平成30年6月28日（木）
群馬県庁2階ビジターセンター

東京都ユネスコ連絡協議会
ESD研究会
「SDGs達成に向けたESDの実践」
講演・ワークショップ
平成30年7月21日（土）
新宿区立男女共同参画推進センター



地球規模課題の深刻化



CSOネットワーク事務局長・理事
黒田かをり氏作成
参考：「新CSR検定3級」オルタナ他

持続可能な開発目標 (SDGs)



2030年を達成期限とする17のゴール、169のターゲット

持続可能な開発目標 (SDGs)

誰もが使える	
1 貧困をなくす あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる。	7 クリーンエネルギー すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する。
2 飢餓をなくす 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する。	8 デイセントワークと経済成長 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用を促進する。
3 健康と福祉 あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。	9 産業・技術革新・社会基盤 強靭なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る。
4 質の高い教育 すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。	10 格差の是正 各国内及び各国間の不平等を是正する。
5 ジェンダー平等 ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う。	11 持続可能なまちづくり 包摂的で安全かつ強靭で持続可能な都市及び人間居住を実現する。
6 水と衛生 すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する。	12 持続可能な消費と生産 持続可能な生産消費形態を確保する。
13 気候変動へのアクション 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。	14 海洋資源 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する。
15 陸上資源 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を防止する。	16 平和と正義、有効な制度 持続可能な開発のための平和と包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する。
17 パートナーシップで目標を達成しよう 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。	

SDGsがつくられたプロセス



普遍性：途上国だけではなく、先進国も取り組む

※SDGs策定プロセスのイメージ

SDGsのポイント

持続可能な開発のための2030アジェンダ

・アジェンダ2030は前文に加えて4つのセクションからなる。

- ① 宣言
- ② 持続可能な開発目標 (SDGs) とターゲット
- ③ 実施手段とグローバル・パートナーシップ
- ④ フォローアップとレビュー

Point

- ・ **普遍性** : 途上国だけではなく、先進国も取り組む
- ・ **包摂性** : 「誰一人取り残さない」
- ・ **統合性** : 課題はつながりあっている

2030アジェンダのキーフレーズ

- ・ **Transforming** our world.
「私たちの世界を変革する。」
- ・ Leaving **no one** behind.
「誰一人取り残さない。」
- ・ Reach **the furthest** behind first.
「最も厳しいところから手をつける。」

5つの要素 “5P”



※出典：戦インターリスケ総研より資料提供

SDGs (English) List - Contents translated by Global Education in a World of Change

「SDGs」と「教育」

- 教育はSDGsの目標4に位置付けられており、ESDは目標4の中のターゲット4.7に記載されています。しかし、教育については、「教育が全てのSDGsの基礎」であり、「全てのSDGsが教育に期待」している、とも言われています。特に、ESDは持続可能な社会の担い手づくりを通じて、17全ての目標の達成に貢献するものです。ですから、ESDをより一層推進することが、SDGsの達成に直接・間接につながっています。また、SDGsを、ESDで目指す目標が国際的に整理されたものとして捉えることもできます。



持続可能な開発のための教育（ESD）の更なる推進に向けて
～学校等でESDを実践されている皆様へのメッセージ～
文部科学省 日本ユネスコ国内委員会教育小委員会

学習指導要領の改訂

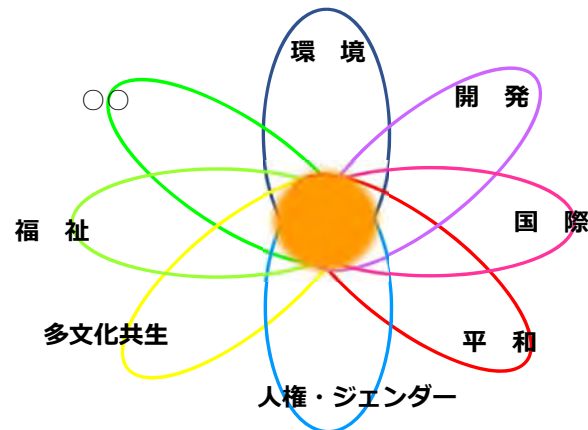
■ 前文（幼・小・中）

これからの学校（幼稚園）には、一人一人の生徒（幼児・児童）が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。このために必要な教育の在り方を具体化するのが、各学校（幼稚園）において教育の内容をこの考え方は、具体的に組み立てた教育課程である。

この考え方は、具体的に組み立てた教育課程である。

平成29年3月31日公示 新学習指導要領

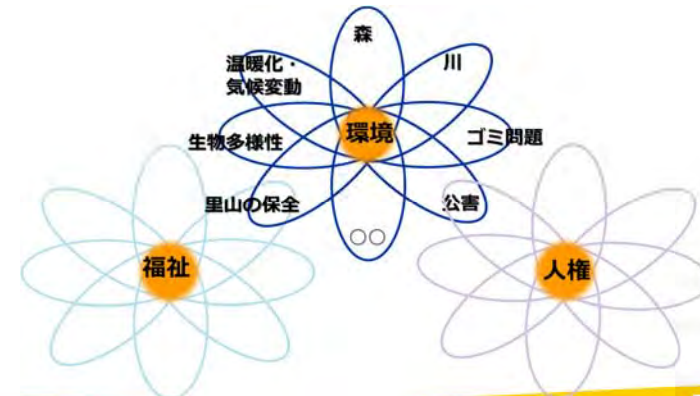
○○教育の接点 = ESD



ESDの特徴

多様なテーマを総合的に扱います

問題の多くは、様々な要素が密接に関わりあっています。それらのつながりを考え、具体的な問題解決に結びつけます。



ESDの特徴

ESDの対象は子ども
だけではありません

学校、企業、地域住民、行政、NPO・・・
多様な立場や世代の人々がESDの担い手であり、
学び手です。



「協働」する意識
・適切な役割分担
・対等な立場
・相互に協力
=お互いの強みを
活かして、同じ課
題を共有し、協力
し合う
=持続可能な社会

ESDの特徴

「教える」教育で
はありません

具体的な課題・問題を解決するために考え、話し合
い、行動しながら学ぶ学習活動です。



「気付き」を大切
にする
・どうして？
・誰が？
・どこで？
・どうしたら？

ESDの特徴

未来を描くこと

地域の歴史や現実を学び、そこから自分たちが望む
未来を描くことから始まります。



50年後も、
100年後も、
自分の子どもも、
孫も、そのまた
子どもも、
ずっとこの地域で
暮らすために

① 課題・テーマのつながりを考える



② 人・組織のつながりを考える



③ 過去や世界とのつながりから未来を考える



本日の目的

- 今日取り上げる事例は、地域で実践されているSDGsに貢献する取り組みです。
- これらの取り組みは、**SDGsの達成につながる行動・考え方が出来る人づくり**に効く、仕組み、連携、工夫があります。

「SDGsの達成につながる仕組み、連携、工夫とは？」

「地域の中でSDGsに貢献する取り組みをするためには、
どんなことから始めればいいのか？」

を**みんなで考え**、掘り下げ、共有します。

SDGsの達成につながる行動・考え方が出来る人

昨年度の地域フォーラム「ひとづくり2030」より

- 地元愛・郷土愛を持つ人
- 対話により変わっていく人
- 協調性があり、協働できる人
- 多様な生き方を互いに大事にする人
- つながりを作れる人
- つなげて考えて行動に移せる能力をもった信念の人
- 世代や立場を超えて、互いに学び合う関係をつくる人
- 地域を動かす人